松陽の学び舎から巣立ち

昨年９月の体育祭後の３年生の集合写真。体育祭では，体育コースの３年生が集団行動「青春の鼓動」をリードして脚光を浴びた他，団結した応援で学年団の仲の良さを際立たせていた。

芸術文化の殿堂 多彩な個性育む

令和４年度入学の３年生、第40期２７７名が３月３日に卒業式を迎えた。新学習指導要領のもと新しい学びの先陣をきった３年生。コロナ後の日常を徐々に取り戻した学年でもあった。今回は、３年生の卒業を祝して特集号を企画した。

松陽スピリット

発行所
鹿児島県立松陽高等学校
新聞同好会
鹿児島市福山町573番地

祝 卒業特集号

1面…進路速報
「合格の喜びの声」
松陽芸術祭
2面…冬季の松陽生の活躍
田嶋校長勇退へ
「化学・ラクビーの魅力伝え続けたい」
松陽グルレポ探検隊
「ジャニス洋菓子店」

第28回松陽芸術祭 ３年間の成長に驚き

1月21日～26日に美術科・普通科書道コースの卒業作品展と在校生の作品展示が、1月21日に音楽科卒業演奏会が「松陽芸術祭」として開催され、保護者をはじめ多数の観客が訪れ、盛り上がりをみせた。

美術科

美術科の黎明館、市立美術館の会場には、三年生の個人のブースが作られた。各自の高校３年間の作品がずらりと展示され、観客はその技巧の成長ぶりに目を見張った。「一人一ブランド」をテーマに、ファッション雑誌を模した作品も展示され観客を楽しませた。

美術科の黎明館会場の様子。個性あふれる作品に見入る観客。

音楽科

宝山ホールで開催された卒業演奏会では、三年生一人一人が、自分の専攻するピアノ、管楽器、歌唱等を10分程度ずつ披露。会場の保護者や在校生、そして恩師たちに感謝の気持ちを音色で伝えた。

書道コース

書道コース三年生５名が、卒業作品として多字数をびっしりと書き込んだ大作を展示し、迫力ある書に観客は見入った。小濵愛夢さん（3－2・皇徳寺中）は3年間で「『自分のことばを自分の力で表現する』ことができるようになった」と書道コースの学びへの感謝を語った。〔堂園結衣・内野心春・立野美吹〕

原口璃々さん（3－8・川内北中）は「油絵を描いているが、今では『これは写真？』と友達に言ってもらえるようなレベルに成長できた。担任の宍野先生の指導のおかげと感謝している」と語った。

挑戦の意欲高く 国公立大17名合格

進路速報

本校のキャリアガイダンス部主任の福田智行先生によると、２月13日現在で、本校では推薦型入試等で、国公立大に現役で17名が合格している。今年度の進路状況について「例年より国公立大に挑戦する生徒が増え、高い意欲が結果に結びついた生徒が多い。また、例年より公務員志望の生徒が増加した」という。

全国的な入試の傾向について「新課程入試一年目で、かつ情報Ⅰが加わったこともあり、過去問がない中での共通テストとなった。平均点は文系・理系ともに昨年よりも上昇したが、共通テストは限られた時間で多くの文章を適切に理解し、効率よく情報を処理する能力が必要でやさしくはない」と分析される。一・二年生には「最初の試験が８月にある私立大学もあるため、かなり早い段階で大学調べや入試準備が必要となってきている。二年生のうちに行きたい大学の選択肢を決め、入試内容について調べておくと良い。『どうしても行きたい』学校や仕事を見つけ、強い思いを持って頑張って欲しい」と在校生にエールを贈った。〔内野心春〕

鹿児島大学 法文学部 人文学科 多元地域文化コース合格
中村喜菜さん（3－1・郡山中）

合格した時は緊張が一気にほぐれ、目標を達成できた喜びと支えてくださった方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。小論文と面接が試験内容だったのですが、小論文は語彙力を増やすことを、面接は自分の意思を明確にもって臨むことを大切にしました。私は鹿児島の魅力を多くの方に知ってもらいたいという目標があり、メディア業界に興味があります。一・二年生の皆さんには、一日一日を大切にして、たくさんのことに挑戦してもらいたいです。

福岡教育大学 教員養成課程 音楽専攻 中等教育合格
狩集一花さん（3－7・大笠中）

私は、一日の生活に、ピアノ・声楽の練習や筆記試験の勉強を詰め込み頑張りました。放課後には、友人たちと意見交換をしたり、入試前には入試と同じ時間割で行動したりするなど準備を工夫しました。夏はできたことが秋にはできなくなった時は焦りの気持ちが生まれましたが、親や先生に支えられ無事に合格することができました。将来は、松陽高校で学んだ「音楽は人生を豊かにする力がある」ということを伝えられる教師になりたいです。

アートな日々 VOL. 4

「青春の輝き」像

制作者 田原迫 華さん（本校第13期生）

生徒玄関で私たちを見守るこの像は、創立20周年記念として制作された。「光に向かって飛翔する姿をイメージ」している。『創立20周年記念誌』像を見て卒業生の飛翔の姿を想像した。〔立野美吹〕

松並木

卒業を迎え、それぞれの進路に進む春。親元を離れて生活する人も多いだろう。新しい環境での生活や、初めての一人暮らしに期待と不安でいっぱいなのではないだろうか。しかし、そうした不安の優先順位に、慣れない地での防災を上げる人はそう多くはないかもしれない。▼昨年の１月１日に石川県能登地方を襲った震度７の地震の報道は私たち高校生にも大きな衝撃だった。そして、今年１月13日の夜、宮崎県日向灘を震源とする震度５弱の地震は、鹿児島市付近でも大きな揺れを感じさせた。そして今後30年以内に発生する確率が７割を超えるという南海トラフ地震。静岡県から宮崎県にかけての広範囲が震度７となる可能性があるほか、関東から九州沿岸では10メートルを超える津波が想定されている。▼東京消防庁による地震に対する備えには「身の安全の備え」「初動対応の備え」「確かな行動の備え」の３つの項目がある。具体的にはハザードマップの確認、家具などの固定、避難時に持っていく防災バッグの準備などが示されている。新天地での生活では、まずはハザードマップを確認し、自分の住んでいる地域の災害リスクを確認することも大切だ。備えがあればこそ、新生活に本当の安心が手に入るはずだ。〔堂園結衣〕

※この新聞は学校の公式ホームページからカラーでご覧になれます。個人名横の学校名は出身中です。新聞の題字「松陽スピリット」は，若松璃央さん(3-1)の書です。